

平成 31 年 3 月 18 日

伊予市議会議長 佐川 秋夫 様

議員氏名 若松 孝行



平成 30 年度政務活動費収支報告書

伊予市議会政務活動費の交付に関する条例第 6 条第 1 項に基づき、下記のとおり平成 30 年度政務活動費収支報告書を提出します。

記

- 1 収入（政務活動費） 120,000 円  
2 支出 41,020 円

内訳

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費		
研 修 費	41,020	市町村議会議員特別セミナー
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
人 件 費		
事 務 所 費		
合 計	41,020	

- 3 残額 78,980 円

(注)

- 1 備考欄には、主たる支出を記入してください。
- 2 この報告書には、支出が明らかな領収書等の証拠書類を添付してください。

参考様式第4号

旅費等支出計算書

旅行者氏名	若松 孝行		
用 務	市町村議会議員特別セミナー		
調 査 日 程	平成31年1月15日 ~ 平成31年1月16日		
調 査 先	千葉県美浜区浜田1丁目1番 市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）		
支 出 内 訳	1 旅費		31,020 円
	内訳		
	（運賃等1 航空運賃	松山空港⇄羽田空港	28,380 円)
	（運賃等2 ※リムジンバス	羽田空港⇄J R海浜幕張駅	2,300 円)
	（運賃等3 ※市内バス（京成バス）	J R海浜幕張駅⇄市町村アカデミー	340 円)
	（宿泊費	参加費に含まれている）	
	2 付随する経費		10,000 円
	内訳		
	（参加費（宿泊費込）		10,000 円)
	（資料代		円)
	（手土産代	円× カ所=	円)
	（その他1（内容	）	円)
	（その他2（内容	）	円)
（その他3（内容	）	円)	
（その他4（内容	）	円)	
（その他5（内容	）	円)	

※1旅費のうち、運賃2リムジンバス・運賃3市内バスの領収書は添付なし。

領収書等貼付用紙

議員氏名 **若松孝行**

使途項目	研修費
整理番号	<b>1</b>
領収書等貼付欄	

<b>領 収 証</b>		No. 1-07219						
		平成 <b>30</b> 年 <b>10</b> 月 <b>19</b> 日						
<b>若松孝行</b> 様								
金 額	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;">/</td> <td style="width: 20px; height: 20px;">2</td> <td style="width: 20px; height: 20px;">8</td> <td style="width: 20px; height: 20px;">3</td> <td style="width: 20px; height: 20px;">8</td> <td style="width: 20px; height: 20px;">0</td> </tr> </table>	/	2	8	3	8	0	<input checked="" type="checkbox"/> 現金・小切手 <input type="checkbox"/> 振込・カード <input type="checkbox"/> その他
/	2	8	3	8	0			
但し 上記金額正に領収致しました。								
収 入 印 紙	 観光庁長官登録旅行業第613号 <b>株式会社 日本交通社</b> 代表取締役 <b>光田 秀之</b> <input checked="" type="checkbox"/> 本社 松山市勝山町1丁目18-10 (日本交通社ビル) ☎(089) 946-3911(代) FAX 941-6211 <input type="checkbox"/> 大洲 大洲市中村2丁目1 (愛媛舗道ビル3階) ☎(0893) 24-7911(代) FAX 24-1125	取扱者印 						

按分率 (按分による支出の場合に使用) %
その他  航空運賃 (松山空港⇄羽田空港)

参考様式第5号

領収書等貼付用紙

議員氏名 **若松孝行**

使途項目	研修費
整理番号	2-1
領収書等貼付欄 別紙のとおり	
按分率 (按分による支出の場合に使用) %                      円	
その他	

整理番号 452  
領収書発行日 平成31年1月17日

# 領 収 書

若松 孝行 様

¥10,000※

但し、研修負担金として。

研修科目 : 市町村議会議員特別セミナー  
受講者氏名 : 若松 孝行

入金日 : 平成30年12月28日  
入金方法 : 銀行振込

千葉県美浜区浜田1-1  
公益財団法人 全国市町村研修財団  
市町村職員中央研修所  
分任出納役 石橋美



出張報告書

議員氏名 若松 孝行



使途項目	研修費
活動目的	市町村議会議員特別セミナー
出張先	千葉県美浜区浜田1丁目1番 市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）
出張期間	平成31年1月15日～16日
概要	別紙のとおり
その他	

若松孝行  
市町村議会議員特別セミナー (市町村職員中央所)

NO1

(平成31年1月15日~16日)

政治の行方(星浩) 1月15日 13:30~15:00

今年に変化のある年、特にアメリカが不安定で、トランプ氏の発言、国境の壁、議会と大統領が対立、アメリカと中国の対立の中、技術の争い、軍事の対立、日本はアメリカと中国の間に挟まれた国であり、販売努力が足りないという事、少子高齢化の中、人口減少を乗り越える為には、

① 出生率を増やす事

② 子育ての環境づくり、女性の働きぐちを確保する。

③ 外国人の働き手口を確保、外国人の働き人口を増やす。

外国人労働者は都会に集中する傾向があるという事

議員は聞き上手、説明上手になると、耳が8割、口が2割が良いという話であった。全体的に良い講演であった。

ITで変わる地域社会の展望(牧真太郎) 1月15日 15:15~16:45

この演題については、昨年も受講していたため、あまり感心しなかった。ワープロ、パソコン、インターネット、ブロードバンド、携帯電話、スマホ(スマートフォン)、クラウドの普及の30年間である。ICTを活用した、住民参画、市民電子室を設置して、住民自治の充実に計り、住民の意志を行政に反映して行く事が大切である。インターネットで物と物とが繋がる時代である。

地域力を高める為には、人材と交流を高め、人と人との繋がり、安心して「自由な信頼社会」を築く事が大切であるという話であった。

今日の2つの講演は、自分としては熱心に受講出来たと思っいる。

## 転換期の日本経済～自己責任社会をこえるために (井手英策)

1月16日 9:00～10:30

日本経済は自己責任社会をこえるためには、子育て教育、老後病気住宅の、現役世代は、自己責任の社会であるということ、過疎先進地域で「社会化」の波により、町と商工会とが連携、運輸会社が、お買い物支援プラス見まもりを実現しているスーパー、ガススタンドの経営の取り組みについて紹介がありすべての不安を取り除き国全体でささえ合う社会をつくる転換期という時期を政府も気づきはじめた。時代はダイナミックに動いている。僕達が壊した未来は僕達たちが再建する責任があるという。

## 地域包括ケアシステムとまちづくり (田中滋)

1月16日 10:45～12:15

昔は要介護者がいなかったが、医療と社会の中で、子供と若者の死亡率の低下の反面、各年死者の平均年齢が上がっている。要介護の急増、地域包括ケアシステムでは、高齢者の医療介護連携、介護生活支援、住まい、医療予防の取り組み、何よりも重要な社会は、政策目標は少子化脱却策であるという。

またまたこれから少子高齢化の波が続いて行くと思う。この間研修して、今後共真剣に取り組んでいかなくとはならない問題が山積していると感じている。